

白山ふるさと文学賞

第八回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

小学生5・6年作文の部 最優秀賞

身近な縁の下の力持ち

松任小学校六年

番作 ばんさく

優奈 ゆな

「縁の下の力持ち」

これは、私が五年生の時、道徳の授業をきっかけに大好きになった言葉です。その時の話の中に「ホペイロの山さん」が登場します。ホペイロとは、サッカーの世界で使われる言葉で「用具係」という意味です。ヤマさんとは山川さんという男性のニックネームで、サッカーチームのみんなから親しみをこめて山さんと呼ばれているそうです。ホペイロの仕事とは選手の道具の準備や後片付けをしたり、練習相手になったり、試合の用意など、沢山の仕事があります。しかし、どれも地味な仕事で決して表ぶ台に立つことのない裏方の作業です。けれども山さんは自分の仕事に誠実に取り組み、選手一人一人に真心をこめて接しています。そして、チームが勝つために自分は何が出来るのかを常に先読みし、対応する力を持っている人です。サッカーを見ている人は、サッカー選手の活やくしかふ段見ることはないと思います。しかし、チームのために見えない所で一緒に戦っている山さんの様な職業の人がいることを私は初めて知りました。

ちようどその授業を学んだ五年生の時、私達は大きな行事であまり目立たない仕事の役割を任せられることが多かったのです。表ぶ台に立つてチームを引っばるのは六年生の仕事です。五年生は、表ぶ台を作るための準備や、片づけなど本当に地味な仕事ばかりでした。このタイミングで、先生は私達に裏方的な仕事の大切さを教えて下さったのです。その時に先生が

「みんなは松任小学校の縁の下の力持ち。」
と言つて下さいました。それをきっかけに私は地味な仕事も手をぬかず、任せられた役割に責任を持つて最後までやりとげる山さんのような人になりたいとあこがれを持ったのです。

私は、「ホペイロの山さん」という存在を知ってから、学校で目立たない仕事もがんばろうという積極的な気持ちが生まりました。同時に、目立たない所でもがんばっている友達姿も見つけられるようになりました。

そして今、六年生になり表ぶ台に立つ役割が回ってきました。もうすぐ運動会があります。六年生は一番活やくする見せ場です。しかし今では、本番で私達がかがやかせてくれるために、五年生がかげでがんばつてくれていることを私達は分かっています。きっと多くの場面で、五年生の「山さん」達が私達を助けてくれると思います。沢山の「縁の下の力持ち」に支えてもらいながら、チーム一丸となって運動会を成功させたいです。

先日、私は家族でショッピングセンターに出かけました。通路をはさんで、お店が両側に立ちならび、気になるお店を見て回っていると、反対側から女性の店員さんが歩いてきました。女性は通路から一步それて、買い物客が次々と通り過ぎる広い通路に体を向けて立ち止まりました。それから、ゆっくりとおじぎをしてとびらの向こうへ入って行きました。こしから九十度折り曲げたとても丁寧なおじぎでした。たった十秒間程の出来事でしたが、私はまるでスポットライトが当たっているかのよううにその女性から目がはなせず、くぎづけになってしまいました。そして、とても温かい気持ちになりました。その女性のおじぎから、「休けいに入りますので失礼します。」という気持ちと、「お客様、引き続き買い物をお楽しみください。」というおもてなしの気持ちを感ずることが出来たからです。あの時、買い物に夢中でそのしゅん間を目にした人は、おそらくほとんどいなかったと思います。しかし、女性はだれかにアピールするわけでもなく素敵な笑顔を浴えて一礼して入って行きました。私は心の中で「ホペイロの山さん」が思いうかびました。

ホペイロの山さんも、ショッピングセンターの店員さんも職業はちがいます。けれども、二人共自分の仕事に対してほこりを持ち、喜びを感じながら取り組んでいる姿が共通していると思いました。ホペイロの山さんはチームが勝つことに喜びを感じ、店員さんはお客様の笑顔を見ることにきつと喜びを感じていると思います。仕事に対してやりがいを感じ生き生きと活動している人はとても素敵でみ力的です。私は社会の中

で「縁の下の力持ち」がたくさんいることにこれからの体験を通して気がかされました。

私はまだなりたい職業やはっきりした夢は決まっています。しかし、どんな仕事についても自分なりのやりがいを見出し、縁の下の力持ちになっただれかを支えていけたらと思います。私の「生きがい」になる仕事は何なのか、それを見つけたるために、私はこれからももっと色々なことにちよう戦っていききたいと思っています。

